

厚生労働科学研究費補助金（第3次対がん総合戦略研究事業）
分担研究報告書

がん患者家族の支援プログラムの開発

分担研究者 大西秀樹 埼玉医科大学国際医療センター
精神腫瘍科 教授
研究協力者 石田真弓 埼玉医科大学国際医療センター
精神腫瘍科 臨床心理士

研究要旨（目的）がん患者の家族・遺族は、患者と同様に心理社会的な負荷を受け、支援の対象だがそのプログラムは未開発である。よって、本研究では支援プログラムを開発する。（方法）遺族・医療従事者に聞き取り調査を行い、遺族ケアに必要な因子を抽出し分析。集団精神療法による遺族ケアプログラムを作成し、適切な対象・介入時期を探索。また、周囲からの適切なサポートを提案。（結果）遺族の経時的な気分状態の変化を質問紙調査で把握。また、全国調査により周囲からのサポートの是非を確認。（結語）がん患者遺族の苦悩に対応した支援プログラムの導入に適切な対象・介入時期についてのデータを蓄積する一方で、周囲からのサポートについても提案した。

A. 研究目的

がん患者の家族は、患者と同様に心理社会的な負荷を受け、その程度は患者と同程度かそれ以上といわれている。死別後、遺族が受ける心理社会的および身体的な負荷も大きい。家族・遺族の実情に基づいたケアを考えるため、遺族および医療従事者から聞き取り調査を行い、家族ケアに必要な因子を抽出し分析する。さらに、その結果を踏まえ介入プログラムを作成し、より適切な対象・介入時期について検討する。また、遺族に対する周囲からのサポートについて全国調査を実施し、その結果からサポートを提案する。

B. 研究方法

がん患者遺族として、医学的援助をもとめた者（埼玉医科大学国際医療センター精神腫瘍科遺族外来を受診した者）を対象に作成した、集団精神療法による遺族ケアプログラムの適切な実施対象・介入時期について、対象者に自記式質問紙への回答を求めることでその変化を経時的に把握する。

遺族外来受診者やその他の遺族らに対する聞き取り調査に基づいて作成した調査用紙を用い、遺族に対する周囲からの具体的なサポートの現状とその是非について全国調査を実施し、その内容から周囲からの適切なサポートを提案する。

（倫理面への配慮）

埼玉医科大学国際医療センターIRBの承認を受け、研究を実施した。

C. 研究結果

遺族外来初診時から経時的に実施された気分状態を中心とした自記式質問紙調査の結果から、初診時は抑うつ気分が非常に高いが、介入が進むにつれて緩やかに改善する可能性が示唆された。

前年度までの研究結果から、遺族の苦悩として抽出された「周囲からの Unhelpful support（役に立たない援助）」が遺族支援を考える際に問題点であることが明らかになった。そこで、遺族が周囲から受けた援助の是非について全国調査を実施した。その結果、興味本位の言葉かけ、よい面を取り上げた言葉かけ、安易な励ましが Unhelpful support として多く提供されている実態が明らかになった。

D. 考察

本研究結果から、医学的援助を求める遺族に対する支援プログラムとして、がん患者特有の苦悩に対応した集団精神療法プログラムの適切な対象・介入時期について気分状態の変化から経時的に検討することができた。ま

た、これまでの研究結果から明らかになって
いた遺族に対する Unhelpful support の実態
と、具体的なサポートの是非について明らか
にすることが出来た。

E. 結論

本研究では、家族ケアの中でも特に遺族へ
のケアに焦点を当て、その現状の把握、分析、
適切な援助の検討、介入の提案、実施を行い、
より適切なプログラムの開発を進めている。

また、医療者から提供する援助と並行して、
周囲からの援助に対しても検討を加えること
で家族支援プログラムとして多くの視点を踏
まえており、今後もさらなる効果の確認と臨
床的適用性の確認、多方面からの家族・遺族
ケアの普及について検討する必要がある。

F. 健康危険情報

特記すべきことなし。

G. 研究発表

1. 論文発表

1. Ishida M, Onishi H, Uchitomi Y, et al: Psychological distress of the bereaved seeking medical counseling at a cancer center. Jpn J Clin Oncol, 42, 506-12, 2012
2. Matsunaga M, Onishi H, et al: Hypomanic episode during recurrent gastric cancer treatment: report of a rare case and literature review. Jpn J Clin Oncol, 42, 961-4, 2012
3. Tada Y, Onishi H, et al: Psychiatric disorders in cancer patients at a university hospital in Japan: descriptive analysis of 765 psychiatric referrals. Jpn J Clin Oncol, 42, 183-8, 2012
4. Tada Y, Onishi H, et al: Dissociative stupor mimicking consciousness disorder in an advanced lung cancer patient. Jpn J Clin Oncol, 42, 548-51, 2012

2. 学会発表

1. Onishi H, Ishida M: Is thiamine deficiency rare in referred cancer patients with delirium? East Asia Psycho-Oncology Society 3 Meeting, Beijing, 6-7 September, 2012.

2. Ishida M, Onishi M, Uchitomi Y et al: Psychological Distress of the Bereaved Seeking Medical Counseling at Cancer Center. International Psycho-Oncology Society. Brisbane, Australia. November, 2012.
3. 伊東洋, 大西秀樹, 他: フェンタニル不応性の痛みに対し、抗不安薬が奏功した急性リンパ性白血病の一例(08-10). 抄録集 pp.298. 第17回日本緩和医療学会学術大会. 2012.6. 神戸
4. 多田幸雄, 大西秀樹, 他: がん患者における精神障害 : がんセンターと大学病院の比較より. (P67). プログラム・抄録集 pp.125. 第25回日本サイコオンコロジー学会総会. 2012.9. 福岡
5. 石田真弓, 大西秀樹, 他: 遺族外来受診患者における集団精神療法プログラムの検討. (P106). プログラム・抄録集 pp.144. 第25回日本サイコオンコロジー学会総会. 2012.9. 福岡

H. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む。)

1. 特許取得
なし。
2. 実用新案登録
なし。
3. その他
特記すべきことなし。